



学校だより

わかまつ

鈴鹿市立若松小学校

№32

令和3年3月15日

いま終わる ひとつのこと

厳しかった冬の寒さもやわらぎ、校庭や野山の至るところで春の息吹を感じるころとなりました。3月は、学年のしめくりであるとともに、次学年への準備を進める大切なときです。一日一日を大切に、いろいろなことに全力で取り組んでほしいと思います。

6年生にとっては、いよいよ卒業式を迎えます。小学校生活の集大成です。返事も、歌も、自分のもっている力をすべて出し切ってください。主役として、堂々と胸をはって巣立ってください。

たくさんの思い出の若松小学校での6年を終えて、卒業の日を迎えられることを心からうれしく思います。



ひとつのこと

齋藤喜博

いま終わる ひとつのこと
いま越える ひとつの山
風渡る 草原(くさはら)
響(ひび)き合う 心の歌
桑(くわ)の海 光る雲
人は続き 道は続く
遠い道 はるかな道
あす登る 山も見定め
いま終わる ひとつのこと
いま終わる ひとつのこと

6年生 奉仕作業

3月12日(金) 5.6限、卒業を前に6年生が奉仕作業をしてくれました。お世話になった学校に、自分たちにできることは何かを考え行動に移してくれたのです。6年間いっぱい思い出のつまった学校に対して、校舎1階の窓拭き、体育倉庫の掃除、会議室の片づけなどをしてくれました。

みんなが、一生懸命に働いて、きれいにしてくれました。ありがとうございます。周りの人たちに対しても、何ができるか考え、行動に移してほしいと思います。



読み聞かせボランティア

毎月2回、火曜日の朝の時間（若松タイム）に、本の読み聞かせをしていただいています。今年度は、新型コロナウイルス感染症対策のため、2学期の途中から始め、3月2日まで行いました。実物投影機を使って工夫しながら、熱心に活動していただきました。読み聞かせは創造力や言語能力が高まり、感情豊かになるといわれています。ボランティアのみなさんに感謝するとともに、子どもたちが読書の「楽しみを広げられることを願います。



さらに、全学級で読み聞かせを進めていきたいと思います。保護者、地域のみなさんで、読み聞かせに興味がある方はぜひご協力をお願いします。「できる人が できるときに 無理なく」を基本に、ご協力いただければと思います。よろしくお願いいたします。

防災学習を実施しました

3月11日(木)に、鈴鹿市内全小中学校において防災学習が実施されました。平成23年3月11日に起こった東日本大震災を風化させないために、被災した人たちの思いを知るとともに、自分たちの地域の特性を学び、南海トラフ地震に対してどのような備えが必要か考えるなど、防災意識を高めるのが目的です。



本校では、2限後に全校で、地震発生を想定した避難訓練を行いました。放送を聞いて、静かに素早く行動できていました。また、それぞれの学年・学級において、防災ノート、東日本大震災に関連した資料（DVD、ワークシート）などを活用して、話し合いを行いました。5年生は、みえ防災コーディネーターの戸口孔二さんを講師に招いて、防災学習を行いました。「大地震が発生した場合の避難の仕方について」若松地域の特性に応じた講話を聴き、学習を深めました。津波避難の原則「より早く」、「より遠く」を強く心に刻みました。



「子ども語り部」がデビューしました

3月14日(日)、「大黒屋光太夫顕彰会・若松地域づくり協議会」共催による「子ども語り部と光太夫史跡を巡る」行事が開催されました。光太夫座像、道標、校歌碑、心海寺などの史跡を見学しながら、子ども語り部が説明しました。子ども語り部は、夏休みの寺子屋及び現地勉強会に参加して、大黒屋光太夫や磯吉のこと、若松の歴史について学びを深めてきました。そこで今回、子ども語り部のデビューの運びとなりました。今までの学習の成果を発揮して、堂々とわかりやすく説明していました。今回の語り部は6年生の田牧さん、森川さん、森田さん、奥田さんの4名でしたが、現在12名が登録しています。今後の活躍を期待しています。

